

## (7-1) アルミ圧延

13 / 12 14 / 13 ◎ 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ ▲ 10%  
: 天気図マーク; ● ○ 伸び率 0 ~ 10% ● 伸び率 ▲ 10%以下

### 1. 企業経営動向

#### (1) 需要

平成13年度は世界的なIT不況の影響から、電解コンデンサー用箔地、半導体製造装置向けアルミ厚板を中心に生産が大きく減少したが、14年度に入り急速に回復しつつあり、特に、電解コンデンサー用箔地は2桁台の伸びを示している。

一方、建設向け需要については、13年度に引き続き低水準で推移しており、回復の兆しは見られない。缶材は13年度に引き続き堅調に推移している。自動車用部品に関しては、自動車軽量化による部材の需要が高まっており、堅調な伸びを示している。エアコン用フィン材は、海外生産が増加しており、減少傾向が続いている。輸出においては、国内での減少分をカバーするため、前年を上回る水準で推移しつつある。

今後の見通しは、現在のIT関連需要の回復基調がしばらく続くと思われるが、長期的な見通しは不透明。自動車向け及び缶材については、引き続き堅調に推移する見込み。

#### (2) 生産・設備稼働

13年度は軒並み2桁台の減少を示していたIT関連製品を中心に、急速に回復してきており、板類、押出類ともに、マイナス幅が縮小している。箔については、前年同月比プラスに回復している。

13年度の生産量は、板類が▲7.0%、押出類が▲10.6%、箔が▲15.3%（いずれも前年度比）。

#### (3) 企業収益

アルミ圧延主要企業の経営動向（大手4社連結ベース）（単位：億円、%）

	平成11年度	平成12年度	平成13年度
売上高	9,710	10,007	9,219
営業利益	89	250	208
経常利益	▲98	81	78
純利益	▲218	▲232	6
経常利益率	-1.0	0.8	0.8

13年度決算では、猛暑の影響により缶材は堅調に推移したものの、IT関連需要の低迷から電解コンデンサー用箔地、半導体製造装置向けアルミ厚板を中心に大きく減少したことにより、各社とも売上げを落とした。この結果、売上高は、前期比▲7.9%、経常利益は▲3.7%となった。純利益においては、リストラに伴う特損の発生により大幅な減益となった前期から黒字に回復した。

## 2. 設備投資動向

アルミ圧延業の設備投資動向（単位：百万円、％）

	12-13共通回答企業		13-14共通回答企業		13/12	14/13
	12年度	13年度	13年度	14年度		
アルミ圧延	21,632	15,804	14,806	13,536	73.1	91.4

### (1) これまでの設備投資の推移

12年度は、更新、維持・補修が中心であったが、一部に将来の自動車向け需要に備えた能力増強投資が見られ、投資額は前年を上回ったものの、全体的には減価償却の範囲内での投資であった。13年度においては、引き続き更新、維持・補修を中心に減価償却の範囲内での投資が行われたが、IT関連の需要の落ち込みを背景に、一部設備投資の先送りの動きも見られた。

### (2) 平成14年度の設備投資計画

景気先行きの不透明感を背景に、引き続き設備投資の延期・圧縮が実施され、更新維持・補修が中心。一方、自動車部材・部品のアルミ化に伴う新規成長分野では、能力増強投資が引き続き進められる見込み。

## 3. 長期資金調達・運用動向

12年度は、資金需要の拡大に伴って、減価償却による自己資金に加え、短期資金の繰入が行われた。13年度は、設備投資の抑制による資金需要の減少により、減価償却を中心とした資金調達が行われた。14年度も引き続き設備投資は抑制傾向であるが、社債償還に伴う民間金融機関からの借り入れが見られる。

### （グラフ1：設備投資の前年比の推移）

